

参拝のしお



仙臺総鎮守 國寶 大崎八幡宮

仲哀天皇・神功皇后



割拝殿様式の長床(国指定文化財)

仙臺総鎮守 國寶 大崎八幡宮

〒980-0871 宮城県仙台市青葉区八幡4丁目6-1
TEL.022(234)3606 FAX.022(273)1788

ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.oosaki-hachiman.or.jp>

✉oosaki@oosaki-hachiman.or.jp



アクセス

- 〈お車で〉 ●JR仙台駅より……………約20分
●東北自動車道仙台宮城I.C.より……………約20分
●仙台空港より……………約40分
●仙台港より……………約50分
- 〈バスで〉 ●JR仙台駅より……………約20分
※西口バスプール15番乗場より八幡宮前バス停下車
- 〈JRで〉 ●JR東北福祉大前駅より……………徒歩約15分
●JR国見駅より……………徒歩約20分

御祭神／応神天皇

御由緒

平安の昔、東夷
征伐に際して、

坂上田村麻呂は、武運長久を祈念すべく、
守護神である宇佐八幡宮を現在の岩手
県奥州市水沢区に勧請、鎮守府八幡宮
を創祀しました。

その後室町時代に奥州探題大崎氏はこ
れを自領、現大崎市田尻に遷祀し守護
神として篤く崇敬した為、世に大崎八
幡宮と呼ばれました。大崎氏の後は、
仙台藩祖伊達政宗公が居城の玉造郡岩
出山城内の小祠に御神体を遷し、仙台
開府後仙台城の乾（北西）の方向にあた
る現在の地を神域と定め、政宗公の命
により慶長九年（一六〇四）工事が始められ、三年後の慶長十二年
に遷座祭が行われ、仙台藩総鎮守として鎮座されました。

この際、旧領の羽前国米沢にて代々尊崇しておりました成島八幡



慶長十二年、御神体仙台に御鎮座（『大崎八幡宮来由記』より）

宮も共に祀られました。

御社殿造営にあたっては、当時豊臣家に仕えていた当代一流の工
匠が京、大坂、和歌山などから招聘され、その手に成った御社殿
は豪壮にして華麗なる桃山建築の特色が遺憾なく発揮されたもの
で、藩政時代を通じて歴代藩主の篤い尊崇を受け、仙台六十二万石
の総鎮守として伊達家の威風と桃山美術の絢爛たる息吹とを今に
伝えております。

毎年九月には十五日を中心に例大祭が行われ、藩政時代より続く
流鏑馬神事や宮城県指定無形民俗文化財
の能神楽、八幡町ゆかりの雀踊り、そし
て総勢五百名を越す神幸祭（神輿渡御）な
どが盛大に斎行されます。

又、一月十四日には正月送りの神事とし
て全国的に有名な、正月飾りを焼納する
松焚祭（どんと祭）が行われ、二千名を越
す裸参りの参拝や、一晩で十万人の参拝
者が訪れ終夜境内を賑わします。



御鎮座記念祭

御神徳

当宮は仙台総鎮守として藩祖伊達政宗公は
じめ歴代仙台藩侯はもとより、仙台城下の
人々に至るまで厄除け・除災招福や必勝・安産の神として篤く尊
崇されてまいりました。又、仙台における「卦体神」という十二支

の神を信仰する習俗においては乾（戌亥）の守護神とされ、戌歳・
亥歳生まれの人々からは格別の崇敬を受けております。
この様な歴史的背景から、当宮は現代においても仙台市民はじ
め数多の崇敬者から心のよりどころとして仰がれております。

御社殿の建築と工匠

大崎八幡宮の御社殿は、仙台藩祖伊達政
宗公の命により慶長九年から十二年にか
け、豊臣家召抱えの梅村日向守家次・梅
村三十郎頼次・刑部左衛門国次・鍛冶雅
楽助吉家といった当世隋一の巨匠を招き
造営されました。



拝殿・障壁画（唐獅子）

また後の日光東照宮につながる形式（相の間造り
又は石の間造り）である権現造りの現存最古の建
造物として、桃山様式を代表する大変貴重な存
在であり、昭和二十七年に社殿全体が国宝に指
定されております。
又、御社殿前の長床は創建年月不明ながら御社
殿とほぼ同時期の建築として国より重要文化財
の指定を受けており、その建築様式は、御社殿
とは対比的に、簡素な素木造りから成り、その
対比による階調には桃山文化の粋を窺い知るこ
とができます。



大虹梁・青龍



拝殿の極彩色の枘組み（斗拱）

御社殿の内外にはふんだんに極彩色で彩られた彫刻が施され、随
所にきらびやかな飾金具が取り付けられた黒漆塗りが絢爛豪華さ
の中に落ち着いた風格を現し、全体的に美しい調和をなし、また
拝殿内部には、狩野派の絵師佐久間左京の筆に成る唐獅子の障壁
画や大虹梁の青龍、石の
間格天井には数十種の草
花が描かれ、豪華な桃山
時代の気風を感じること
が出来ます。
内部の彩色は創建当初の
彩色がそのまま残され、



石の間・格天井・五十三種の草花

平成十一年度からは、六カ年度をかけて国庫補助事業として、御
創建以来初めてとなる大規模な御社殿の保
存修理工事が行われ、創建時の美しさを現
代に甦らせました。それに合わせ、御社殿
周囲の環境整備事業を行い、祭儀棟、神輿
殿、透塀、西廻廊などを建設し、平成十八
年に御鎮座四百年奉祝記念大祭を盛大に斎
行し現在に至っております。

祭典神事

年間祭典神事

一月一日	歳旦祭
一月十四日	松焚祭
二月立春前日	節分祭
二月十一日	紀元祭
二月十七日	祈年祭
四月二十九日	昭和祭
六月上旬	文化財の杜育林事業
六月三十日	水無月大祓式
八月八日	七夕祈願祭
八月十二日	御鎮座記念祭
九月一日	例大祭鳥居祭
九月中旬	例大祭献饌式
	能神楽奉奏
	流鏑馬神事
十月十七日	神嘗奉祝祭
十月二十日	地久祭
十一月三日	明治祭
十一月十五日	七五三祈請祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	年越大祓式
毎月一日	月首祭
毎月十五日	月次祭



松焚祭

当宮の松焚祭は二百年の歴史
を有す全国でも最大級の正月送
りの行事で、正月飾りや古神札
等を焼納する正月送りの行事で
あり、当宮においては松焚祭ま
つたまつりといいますが、
他地域では一般に左義長（さぎ
ちよん）又はその火の勢いから
ドンド焼き等とも呼ばれて
おります。一月十四日の夜、境
内の一角に近郷近在より持ち寄
られた門松・注連縄・松飾り等
は日没の頃「忌火」により点火さ
れ焚き上げられます。この火は
正月の間に各家庭に訪れていた
神々を送る「御神火」として、あ
たる心身が清められ、一年間
無病息災・家内安全の加護を得
るという言い伝えがあります。
また、この「御神火」を目標し
て参拝する裸参りがあります。
これは厳寒時に仕込みに入る酒
杜氏が醸造安全・吟醸祈願のた
めに参拝したのが始まりとされ、
江戸時代中期には既に定着して
いたと傳われております。
現在においても、白鉢巻き・
白さしを巻き、口には私語を
慎む為に含み紙と呼ばれる紙
をくわえ、右手には鐘、左手に
提灯を持ち、市内各所より数千
人が参拝するさまは、杜の都・
仙台的冬の風物詩として全国に
知られております。



水無月大祓式



七夕祈願祭



例大祭・神幸祭



例大祭・流鏑馬神事